



2020年度第1四半期

決算補足説明資料

アイペット損害保険株式会社（証券コード：7323）

2020年7月31日

決算ハイライト

当社は、日本の会計基準（J-GAAP）の他に、経営管理指標（Non-GAAP）にて経営成績の開示を行っております。

当社は、Non-GAAP指標を重要な指標と考えております。
詳細はAPPENDIXおよび決算短信をご参照ください。



(対前年同期比較)

1 保険契約の順調な積み上がりにより、トップラインは堅調に伸展

経常収益：**+23.2%**

4,217百万円 ▶ 5,195百万円

2 新規契約獲得の好調による費用増加のため、調整後利益は微減

調整後経常利益：**▲2.3%**

231百万円 ▶ 226百万円

調整後当期純利益：**▲4.1%**

161百万円 ▶ 155百万円

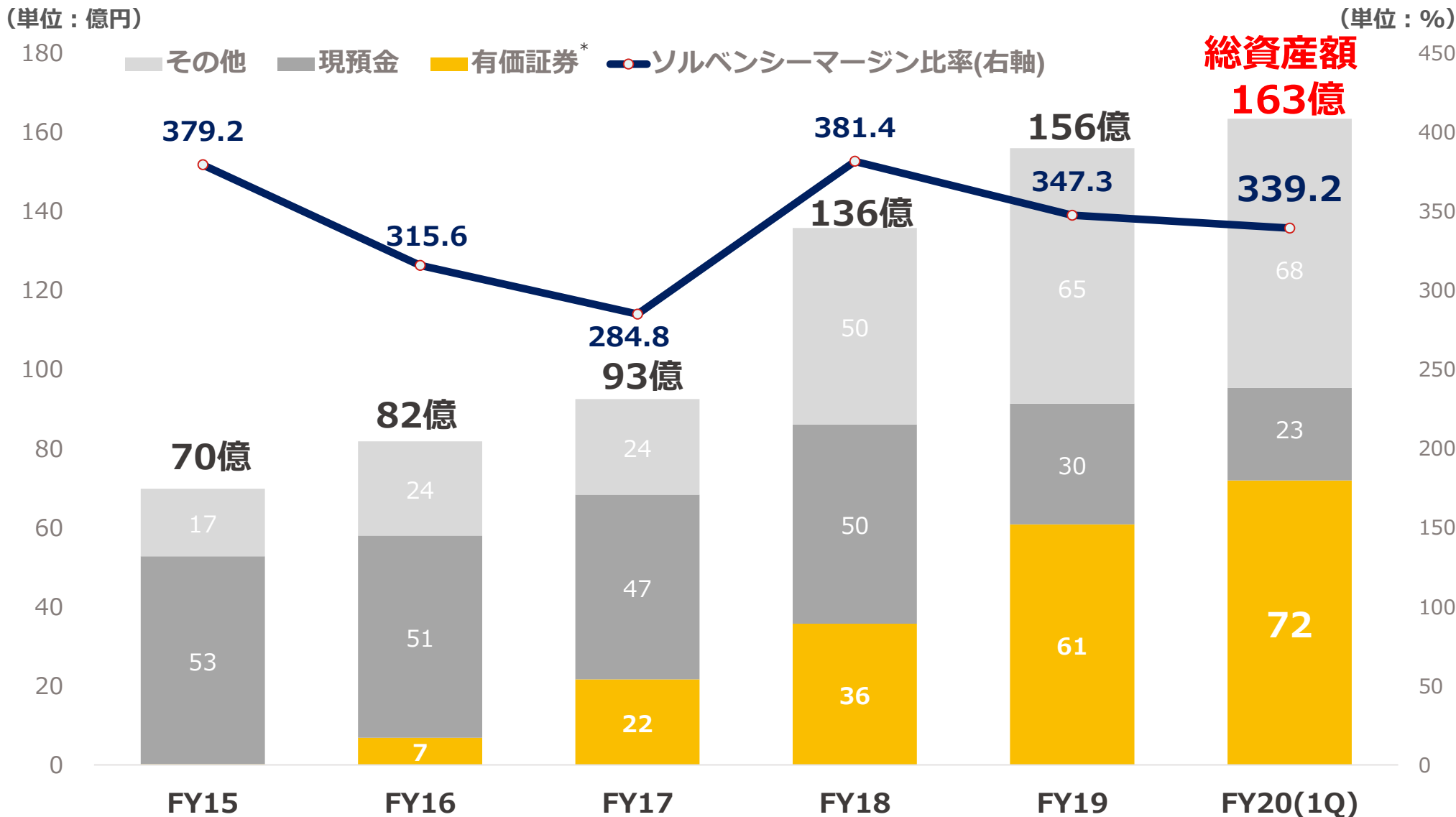
昨年度に引き続き新規契約獲得が好調であり、予算通りの進捗

※未経過保険料方式 (Non-GAAP)

(単位：百万円)

	① FY19 1Q	② FY20 1Q	(②-①)/① 前期比	③FY20 通期予想	②/③ 進捗率
経常収益	4,217	5,195	+23.2%	21,900	23.7%
調整後 経常利益	231	226	△2.3%	1,090	20.7%
調整後 当期純利益	161	155	△4.1%	750	20.7%

着実に総資産を積み上げており、資産運用収益の安定化にも寄与している



* 有価証券には「金銭の信託」を含んでいる。

《業績影響》

保険引受収益は、**プラスの影響**

新規契約

- ・ 旺盛なペット需要を背景に、極めて順調に推移
- ・ 新規契約件数は過去最高を更新

継続契約

継続率に低下傾向はみられず、高い水準を維持

《当社の対応》

お客さま対応の維持と全役職員の**健康と安全を最優先**

お客さま向け

- ・ 継続契約変更や保険料払込みの猶予措置を実施
 - ・ 引受、保険金支払、コールセンター等の対応体制を維持
- ⇒お客さまに選ばれるペット保険会社であり続ける

社内
(全役職員) 向け

- ・ 3月より危機対策会議を設置し、リモートワーク導入
- ・ 今後もリモートワークを前提に生産性を高める

持株会社体制へ移行し、ペットオーナーの悩み、ひいては社会的課題を解決するために事業領域を拡大する。

2020 年度中の持株会社体制への移行を目指して、着実に準備進行中

現時点の持株会社体制案

2020年9月まで

アイペット損害保険 株式会社

2020年10月から(目標)

アイペットホールディングス 株式会社

アイペット損害保険 株式会社

【持株会社】

2020年10月設立を目指す(当局の認可が前提)

【アイペット損害保険株式会社】

ペット保険事業会社(現行のまま)

2021年1月から(目標)

アイペットホールディングス 株式会社

アイペット損害保険 株式会社

〇〇 株式会社

〇〇 株式会社

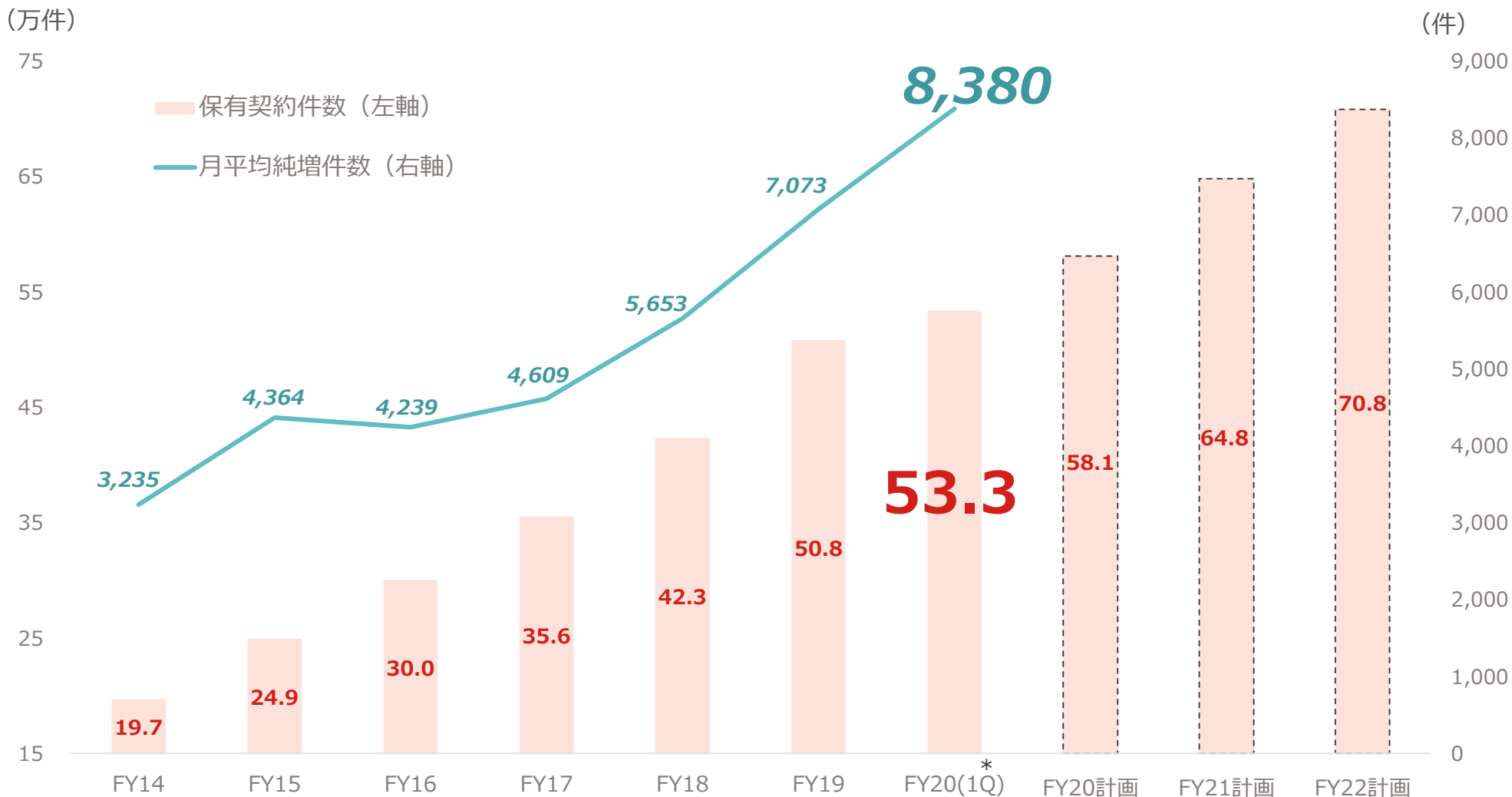
【ペット関連の事業を行う会社】

2021年1月複数設立を目指す(当局の承認が前提)

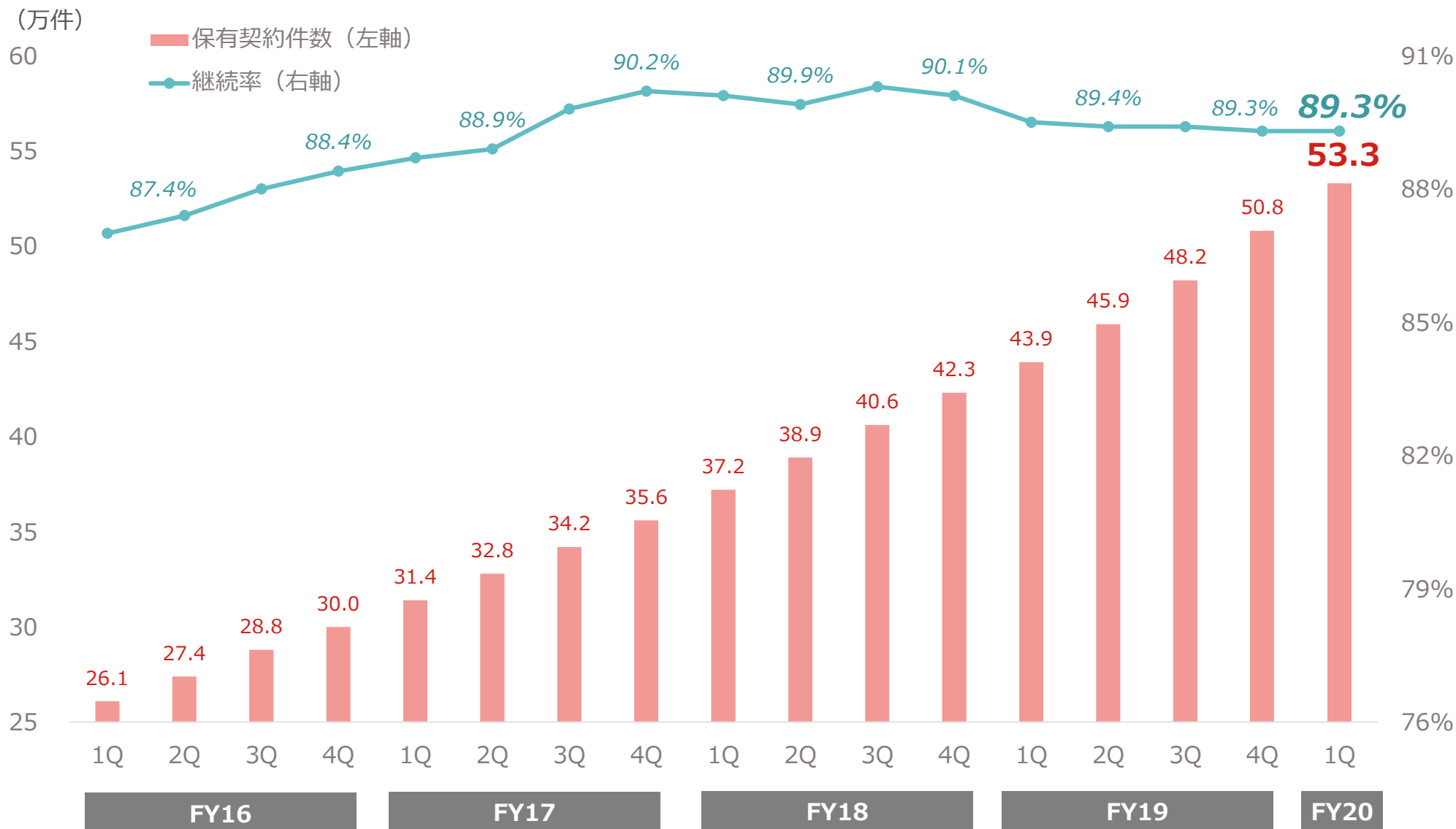


ペット保険会社としての潜在能力を発揮し、ペットと人にまつわる社会的課題の解決につながる
“社会インフラ”としての、持続可能な競争力の構築を目指す。

FY20も、**新規契約件数**ならびに**純増件数**は**順調に増加**
 ⇒**保有契約件数**は**計画を上回るペースで拡大中**（2020年6月末時点 533,364件）

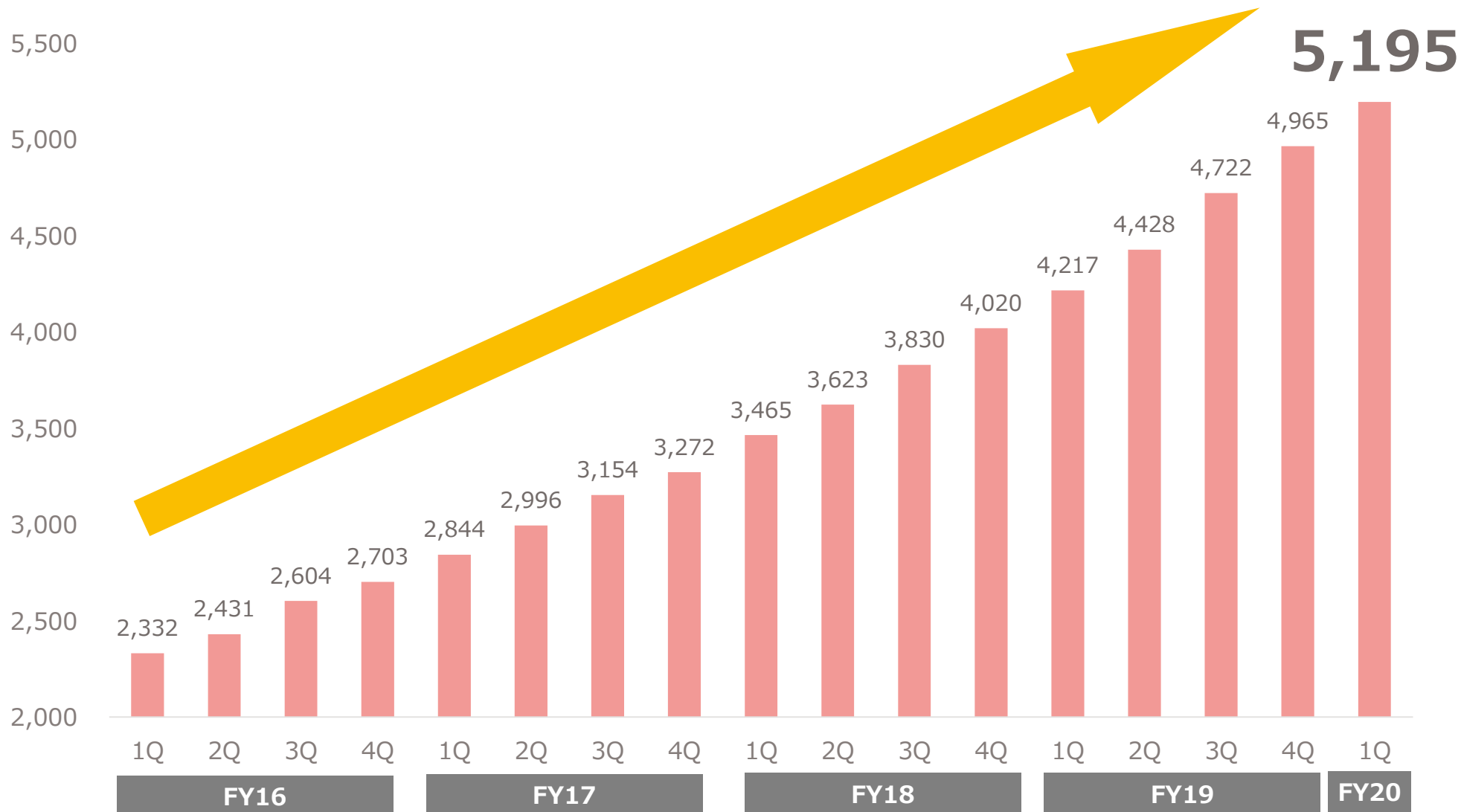


* FY20(1Q)は2020年6月末時点および2020年4～6月の実績



好調な新規契約とトップクラスの継続率が、保有契約件数の続伸を実現

(単位：百万円)



事業規模の高成長は維持しつつも、高水準の増収率を達成

事業を通じた環境負荷の低減(E)、ペットと共に健康で幸せに生きられる社会への貢献(S)、ガバナンスの強化による信頼性向上(G)等の取組みを、更なる成長に活かします。

Environment

ビジネスプロセスの変革や環境に配慮した取組み

- ・デジタルイゼーション推進によるペーパーレス化
 - デジタルマーケティング
 - ご契約者さま専用「マイページ」の活用 等
- ・営業車へのエコカーの活用
- ・共生環境向上、環境美化への啓蒙活動
 - しつけに関する情報発信、啓蒙活動
 - オリジナルウンチ処理袋の配布

環境負荷の低減へ

Social

ペット保険の普及拡大やペットに関わる社会貢献

- ・ペット保険による飼い主さまの支援
- ・持株会社化によるペットに関わる社会的課題への取組み
- ・青森県との動物愛護に関する連携協定
- ・各種情報発信、啓蒙活動
- ・動物福祉に関する活動等への寄付、支援
- ・従業員の働きがい
 - ペット休暇、ペット忌引き制度等
- ・若手、女性の登用等

ペットと健康で幸せに暮らせる社会へ

Governance

ガバナンスの強化

- ・取締役会の監督機能強化、透明性の向上
 - 監査等委員会設置会社への移行
 - 任意の指名・報酬諮問委員会の設置
- ・保険金不正請求防止への取組み
- ・コンプライアンス・リスク管理の一層の強化

より信頼されるペット保険会社へ

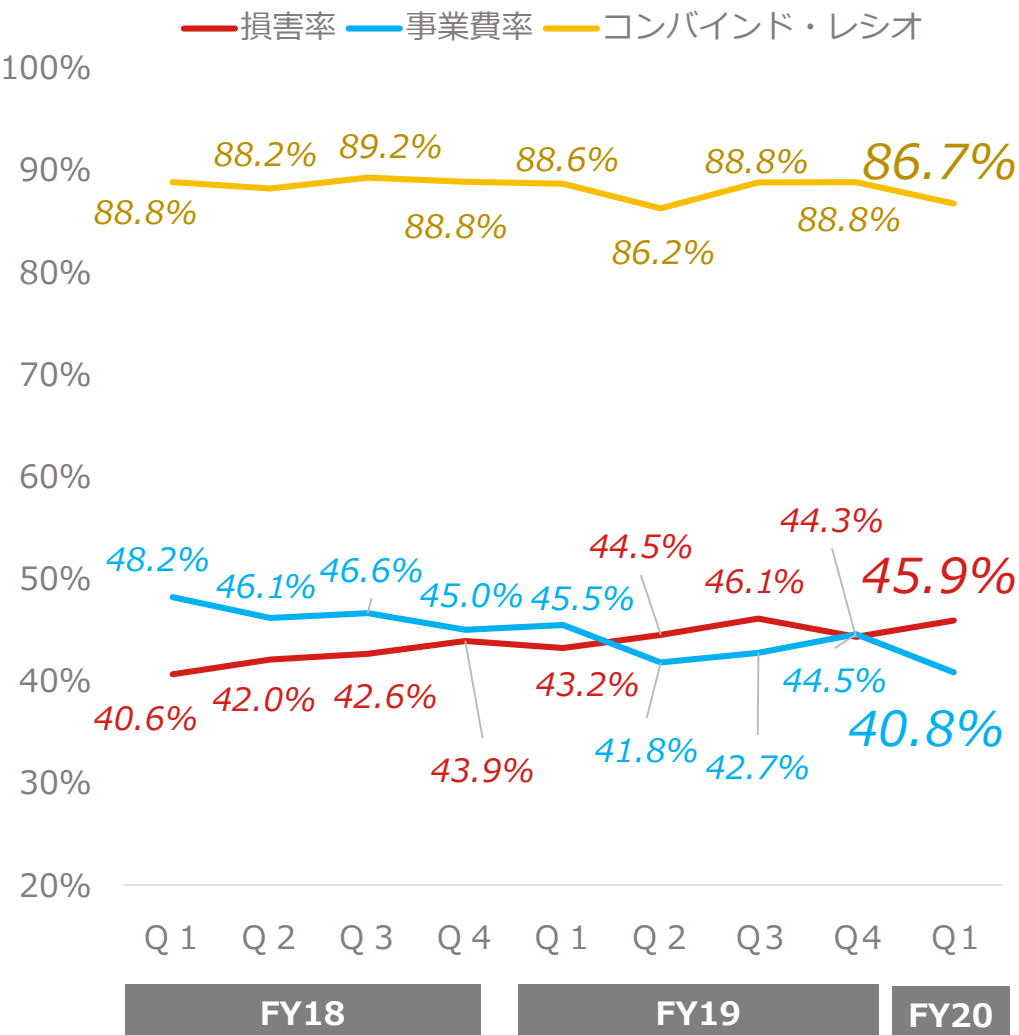
ペット保険事業の推進、進化により、ペットと人間が共に健康で幸せに生きていけるような社会を目指し、「ペットと人のSDGs」に取り組んでまいります。

重点目標	具体的な取組み(例)	対応するSDGsの目標
ペットと共に健康に	<ul style="list-style-type: none"> ・ペット保険の提供 ・ペットの病気やケガに関する情報発信、啓蒙活動 ・「うちの子 HAPPY マラソン」への特別協賛 	
ペットと共に安全に	<ul style="list-style-type: none"> ・ペットの防災に関する情報発信、啓蒙活動 ・災害救助犬の育成支援 	
ペットを飼っている人も飼っていない人も幸せに	<ul style="list-style-type: none"> ・しつけに関する情報発信、啓蒙活動 ・マナー啓蒙活動の実施 	
全ての命に愛を	<ul style="list-style-type: none"> ・青森県との動物愛護に関する連携協定 ・かるた、カレンダーの写真投稿企画での寄付活動 ・「ペットのおうち*」への「ノミ・マダニ駆除薬」支援 ・終生飼養に関する情報発信、啓蒙活動 	
保険会社としての信頼性の更なる向上に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・お客さま主義の推進 ・ガバナンス強化 ・保険金不正請求防止に向けた取組み ・コンプライアンス・リスク管理の更なる強化 ・デジタルイゼーションの推進によるペーパーレス化 ・営業車にエコカーを活用 	
「うちの子」である従業員の健やかな生活と成長に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・ペット休暇、ペット忌引きの導入 ・女性の活躍推進 ・ワークライフバランスの促進 ・ダイバーシティの推進 ・防災対策強化 ・オンラインでの従業員教育 	

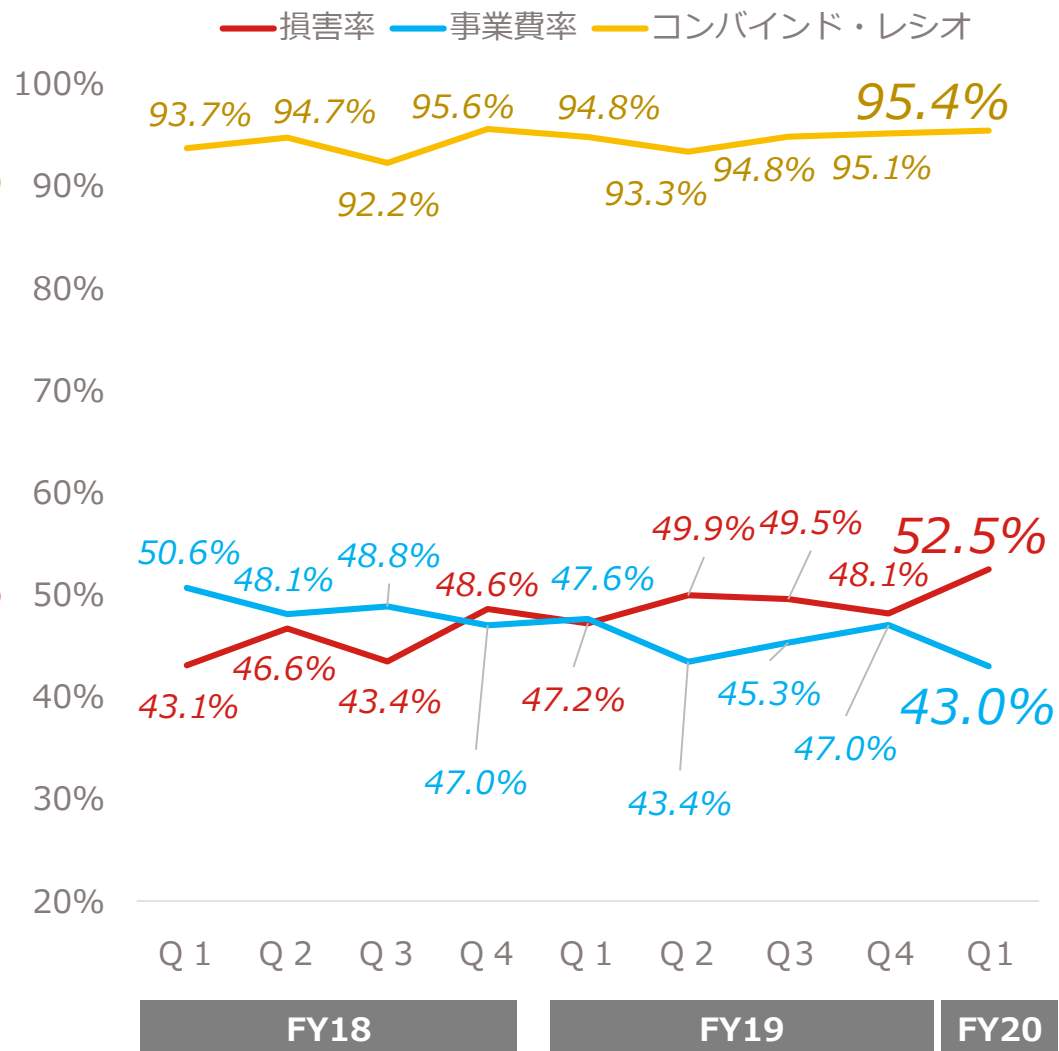
指標の状況について



正味ベース



既経過ベース





Non-GAAPベースの業績

(単位 : 百万円)	FY19 1Q	FY20 1Q	前期比
経常収益	4,217	5,195	+23.2%
保険引受収益	4,186	5,158	+23.2%
資産運用収益	19	26	+40.8%
その他経常収益	11	10	▲9.1%
経常費用	4,120	5,135	+24.6%
保険引受費用	2,684	3,744	+39.5%
資産運用費用	4	34	+690.0%
営業費及び一般管理費	1,428	1,354	▲5.1%
その他経常費用	3	0	▲78.1%
経常利益	96	60	▲37.7%
特別利益	—	—	—
特別損失	1	1	+43.0%
税引前当期純利益	95	58	▲38.9%
法人税等	30	22	▲26.7%
当期純利益	65	36	▲44.6%

主な勘定科目の増減理由

保有契約件数の拡大に伴い順調に増加

利息配当金収入 ▲2百万円
金銭の信託運用益 + 8百万円

正味支払保険金 2,215百万円
(前期比+32.4%)
諸手数料及び集金費 749百万円
(前期比+57.9%)
責任準備金繰入額 425百万円
(前期比+31.6%)

緊急事態宣言下での一部の業務や営業活動の縮小に伴い、関連する諸費用の発生が一時減少

資産運用の拡大に伴い、
価格変動準備金繰入が増加

J-GAAPベースの業績



(単位：百万円)

	FY19 1Q	FY20 1Q	前期比
経常収益	4,217	5,195	+23.2%
保険引受収益	4,186	5,158	+23.2%
資産運用収益	19	26	+40.8%
その他経常収益	11	10	▲9.1%
経常費用	4,193	5,178	+23.5%
保険引受費用	2,757	3,787	+37.4%
資産運用費用	4	34	+690.0%
営業費及び一般管理費	1,428	1,354	▲5.1%
その他経常費用	3	0	▲78.1%
経常利益	23	17	▲27.6%
特別利益	—	—	—
特別損失	1	1	+43.0%
税引前当期純利益	22	15	▲32.0%
法人税等	9	10	+2.7%
当期純利益	12	5	▲59.5%

(単位: 百万円)	FY19	FY20 1Q	前期比
資産合計	15,599	16,330	+4.7%
現金及び預貯金	3,050	2,344	▲23.1%
有価証券等	6,203	7,306	+17.8%
繰延税金資産	1,017	1,072	+5.4%
その他資産	5,327	5,606	+5.2%
負債合計	10,018	10,650	+6.3%
保険契約準備金	8,869	9,540	+7.6%
うち支払準備金	1,290	1,492	+15.7%
うち責任準備金	7,579	8,047	+6.2%
その他負債	1,148	1,110	▲3.4%
純資産	5,580	5,679	+1.8%
資本金	4,118	4,119	+0.0%
ソルベンシー・マージン比率	347.3%	339.2%	▲8.1%

主な勘定科目の増減理由

余剰資金を資産運用に回しているため減少

金銭の信託 1,021百万円
 (+8百万円)
 有価証券 6,165百万円
 (+1,097百万円)

ソフトウェア仮勘定 2,081百万円
 (+98百万円)
 未収保険料・未収金 2,336百万円
 (+147百万円)

初年度収支残 5,078百万円
 (+302百万円)
 異常危険準備金 2,969百万円
 (+165百万円)

未払法人税等の減少 ▲112百万円
 賞与引当金の増加 +56百万円

APPENDIX

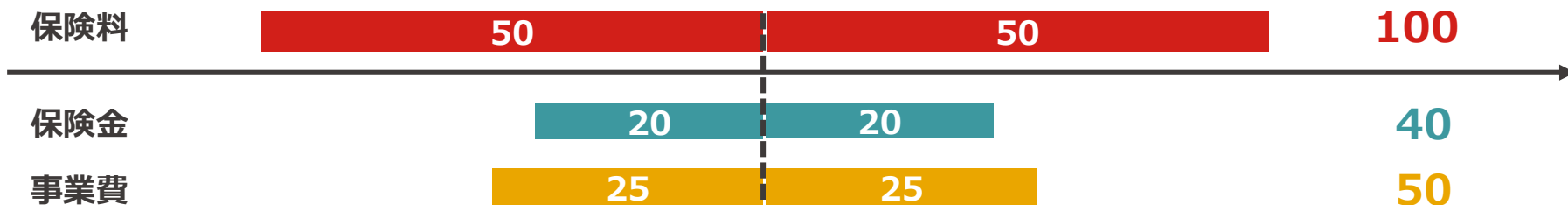


- ・損害保険会社は、普通責任準備金として未経過保険料残高と初年度収支残高の**いずれか大きい方**を負債計上する必要がある（保険業法施行規則第70条1項1号）
- ・当社は、初年度収支残高が未経過保険料残高を上回っているため、**制度会計上初年度収支残方式**によるが、経営管理上は、**発生主義**に即した**未経過保険料方式**を使用

初年度収支残方式と未経過保険料方式

[前提] ● 期中に一時払で100の入金、うち×1年度末での未経過保険料50
● 保険金、事業費はそれぞれ下図の通り

×1年度



初年度収支残方式

	×1年度	×2年度
保険料	100	0
(-)保険金	20	20
(-)事業費	25	25
差引	55	▲45
(-)準備金	55	▲55
利益	0	10

初年度の利益は0

未経過保険料方式

	×1年度	×2年度
保険料	100	0
(-)保険金	20	20
(-)事業費	25	25
差引	55	▲45
(-)準備金	50	▲50
利益	5	5

発生主義による利益

(単位：百万円)

		FY19 1Q	FY20 1Q	FY20予想
Non-GAAP	A) 調整後経常利益 (= B+C)	231	226	1,090
	B) 経常利益	96	60	400
	C) 異常危険準備金影響額	134	165	690

- ・ 当社は、経営者が意思決定する際に使用する社内指標（Non-GAAP：未経過保険料方式）と、日本基準（J-GAAP：初年度収支残方式）に基づく指標の双方で経営成績を開示*
- ・ 当社は、**調整後経常利益**（=未経過保険料方式の経常利益±異常危険準備金**影響額）を経営実態を適切に表す経営管理用の利益指標として使用
- ・ 異常危険準備金は、異常災害による損害の填補に備えるため、事業年度ごとに収入保険料に3.2%を乗じた金額を責任準備金として負債計上する必要がある**
(保険業法施行規則第70条1項2号)
- ・ 今後も、**業績予想は「Non-GAAP：未経過保険料方式」のみ**で開示

* 上場企業のうち、初年度収支残方式に基づく損害保険会社は当社以外は存在していない
** 当社の損害率が大蔵省告示第232号第2条の別表で記載されている基準損害率50%を下回るため

■ 将来見通しに関する注意事項

- ・本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements)を含みます。
- ・これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。
- ・それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。
- ・今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合でも、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正を行う義務を負うものではありません。

本資料および当社IRに関するお問合せ先

アイペット損害保険(株) 財務経理部

E-mail : IR@ipet-ins.com

